



東京大学連携研究機構ヒューマニティーズセンター  
潮田ヒューマニティーズイニシアティブ「公募研究 A」成果報告書

**研究課題(和文):** 比較文学比較文化研究の理論と教育の相互作用に関する総合的検討

**研究課題(英文):** Comprehensive Examination of the Interaction between Theory and Education in Comparative Literature and Comparative Culture Studies

**申請者名・所属先:** 今橋映子・大学院総合文化研究科超域文化科学専攻

**海外招聘者名:** 韓程善(ハン・ジョンソン)・釜山大学准教授

## 1. 研究の目的

比較文学はすでに百年以上の歴史を経過し、日本においても戦後 70 年の学問的歴史を経て、「学際研究」の最先端の実験場としての役割を常に果たしてきた。現在では学際的視座や方法は、すでに人文研究では一般化してきたが、それでもなお「比較文学比較文化」固有の領域やアプローチは存在するのだろうか。そしてこの学問名(やそれに類する)学部、学科、講座、授業はいまや全世界で多数展開されているが、その教育体制や内容はどのような役割を果たしているのだろうか。本研究は、それを具体的に知るために、文学芸術系では珍しい社会学的数量調査を採用して実施し、さらに韓国でも同様の調査をすることによって相対化を図る。これにより教育現場をデータの面で明らかにすると共に、比較文学比較文化の理論の再構築と共に論じ、今後のより充実した大学、大学院教育に資することを目的とする。

## 2. 研究開始当初の背景

申請者は 2021 年以来、科学研究費補助金による共同研究によって、日本における比較文学比較文化研究の理論を再構築し、その理論を一般知に敷衍し、若い世代の院生や学生にも理解可能な事典的ハンドブックを刊行することを目標に研究を進めてきた(2024 年秋刊行予定)。その中で徐々に高まってきたのは、ハンドブックの届け先である初学者が、どのような教育現場に置かれているのか、教育を担当する専門家たちが日々何を感じているのか——ということであった。これまで人文系学問で数量調査を採用するのは極めて稀であるが、幸い複数の専門研究者の協力(\*)を得る見通しが立ったため、本研究を立ち上げることができた。一方、韓国に関しては(後述する)海外招聘フェローと共同研究を進めることとなった。

\* 共同研究者＝井上健(東京大学名誉教授)、西田桐子(和光大学専任講師)、町田樹(國學院大學助教)

## 3. 研究の方法

1) 日韓の共同研究者 5 名が集まり、比較研究(Comparative Studies)の、大学および大学院における教育実態をいかに調査するかについて、まずは過去の事例を文献的に調査し討議することから始めた。「比較文学と教育との関係」については、過去の事例として、2008 年 6 月、日本比較文学学会全国大会のシンポジウム「比較文学と教育」(第 70 回・創立 60 周年記念大会、於大妻女子大学)が挙げられる。井上健を含む 5 名のパネリストによる当時の討論の内容を踏まえ、今回は社会調査で現状を正確に把握するという新しい方向性を定めた。

2) まず「全国の大学(院)の網羅的なシラバス調査」(統括＝西田桐子、2021 年 10 月-2022 年 7 月)を行い、全

授業の題目、内容、教科書の有無等を一覧化して、全体的傾向を分析した。網羅的採取をいかに行うかについ



て、何度も議論と試行を重ね、方法を編み出した。

3) 次に、上記のシラバス調査の結果をもとに、調査対象者(授業担当研究者)を約 130 名に絞り込み、「グーグルフォームを利用した統計調査」(2022 年 5 月-7 月)を実施した。これによって、現場で具体的に何が起こり、どのような成果と問題点があるのかということが詳らになった。

4) 韓程善は、韓国においても日本と同様のシラバス調査を実施し、韓国における比較文学比較文化関連教育の実態を明らかにし、日韓相互に相対化を試みた。

#### 4. 研究成果

1) そもそも、比較文学比較文化の理論の全体像をいかにつかむのかについて、一般視聴者に向けても明快に語るべく、2022 年 3 月 18 日、HMC オープンセミナー「忘れられた美術思想家・岩村透への光——比較文学比較文化研究の視座から語る」(今橋映子・個人講演、オンライン開催)を実施した。

<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2022/58-toru-iwamura/>

この個人講演は、大学外の媒体によっても取材され、ウェブ上で報告記事が掲載された。

「美術と社会をつなぐ！ 忘れられた美術思想家・岩村透への光～東大のオンラインセミナーをレポート」

(ほとんど 0 円大学、ウェブ記事、[http://hotozero.com/enjoyment/learning-report/hmc-u-tokyo\\_toru\\_iwamura/](http://hotozero.com/enjoyment/learning-report/hmc-u-tokyo_toru_iwamura/))

2) 2022 年 9 月 16 日、上記記載の社会成果を踏まえた上で、その中間報告を兼ねて、HMC オープンセミナー「人文研究と教育の環境を科学する——「比較文学比較文化」の現場から」を実施し、共同報告した(オンライン開催)。内容および当日の視聴者からのリアクションは以下で公開している。

<https://hmc.u-tokyo.ac.jp/ja/open-seminar/2022/81-exploring-humanities/>

3) 上記 2 つのオープンセミナーの模様を活字化し、HMC ブックレットとして刊行した。紙媒体と共に、PDF をネット上でも公開予定である。

今橋映子・井上健・韓程善・西田桐子・町田樹『「比較研究とは何か」を語る二つの視座』ヒューマニティーズセンター・ブックレット第 21 号、2023 年 5 月

4) さらに、社会調査の最終分析結果を踏まえ、直接学会へ成果を還元するために、日本比較文学学会全国大会(2023 年 6 月)でワークショップを開催し、共同討議する予定である。

#### 5. 主な発表論文等

[図書]

今橋映子・井上健・韓程善・西田桐子・町田樹『「比較研究とは何か」を語る二つの視座』ヒューマニティーズセンター・ブックレット第 21 号、2023 年 5 月

[学会発表]

1) 今橋映子・井上健・韓程善・西田桐子・町田樹「人文研究と教育の環境を科学する——「比較文学比較文化」の現場から」(オンライン)、HMC オープンセミナー、2022 年 9 月 16 日

2) 今橋映子・井上健・韓程善・西田桐子・町田樹「比較文学比較文化の教育現場と将来——シラバス調査と社会調査を踏まえて」日本比較文学学会全国大会、ワークショップ(対面)、2023 年 6 月 10 日

#### 6. 招聘フェロー(海外招聘者)からのコメント



私は、招聘フェローとして共同研究に参加し、「韓国大学(院)における比較文学比較文化教育の現場と実態」について、社会調査および文献調査を行った。具体的には、「比較文学比較文化」関連科目のシラバスおよびカリキュラムを網羅的に調査し、その傾向を分析することによって、韓国における比較文学比較文化教育の体制と内容を明らかにした。そして研究成果は、HMC 第 81 回オープンセミナー(「人文研究と教育の環境を科学する——「比較文学比較文化」の現場から」、2022 年 9 月 16 日)で報告した。今回の日韓共同研究は、アジアにおける比較文学比較文化の研究と教育の未来を考える上で、非常に有意義な作業であったと思う。なお、今までの研究成果をより深めて、今年 6 月の日本比較文学学会全国大会のワークショップで、韓国の事例を紹介する予定である。[韓程善・釜山大学准教授]